古書のたのしみ（令和七年九月）

土屋　博

一「兼好法師」綠亭生著

（民友社、明治三十年刊、定價拾參錢、一三九頁）

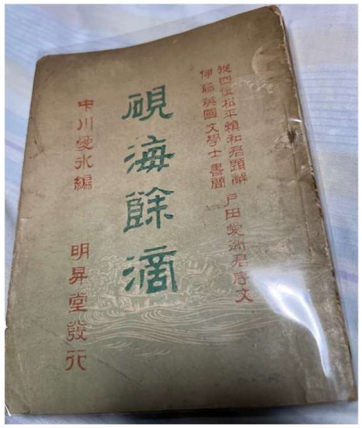
古書價格三百圓也。綠亭生は角田柳作（一八七七年生れ、一九六四年歿）かといはる。東京專門學校卒業後、蘇峰の國民新聞社に入社。其の後米國に渡り、コロンビア大學にて教鞭をとり、ドナルド・キーンを指導す。兼好の經歷については、「幼にして英悟人に超え、才氣倫を絶てり。若くして德大寺家の諸大夫となり、官瀧口に至る。紫宸に守護し、君寵最も厚くして、屢々帝の有難き仰せを被る」と。また、兼好の文章については、「簡潔瀟麗にして無味平淡に流れず、意思透徹して、字々金玉なるもの、之を兼好法師の文と爲す。彼が明快なる筆意、飄逸せる文躰は、遙かに當代に傑出して、鎌倉文學唯一の代表者たり」と。

二「硯海餘滴」中川愛氷編

（明昇堂、明治卅三年刊、定價金廿錢、二一四頁）

古書價格三百圓也。戸田愛洲の序文より、「中川愛氷君は能文達筆の人なり。頃日余を訪うて其の編輯する所の『硯海餘滴』を示す。把て之を見れば、古人百家の隨筆を蒐集せるものにして、上は縉紳巨公より下市井の一平民に至る迄、美人英雄、高人隱士、平氣にて其の常情を流路せるもの、心して之を讀まば、青年の爲には精神的修養となり、世務に從ふ者の爲には處世の要訣を知るに資すべし」と。

目次は、清少納言より四季の評（春はあけぼの）、紫式部より春秋の夜の評（夜更けゆく風のけはひ冷かなり）、鴨長明より心の眞僞（碁を打つに上手は）、吉田兼好の爭を好む失（ものにあらそはす）、荻生徂來より儒者の剃髪（儒者の頭剃りしは惺窩よりはじまりて）、本居宣長の花の品評（花はさくら）、菅茶山より火災の時（備後福山安永の失火に）、平田篤胤より地球の轉旋（日は東に出で）など。



三「源氏物語湖月抄」　全八册のうち七册

（大阪積善、明治三十四年廿三版）

古書價格各百五十圓也。第三編のみ缺けたれど、余りに安價なれば、躊躇無く購入せり。貴族院議員の冷泉爲紀伯爵、序に曰く、「皇國を思ふ心あらん人はよくよみよく味はひてなほさりにすべき書にはあらず」と。

四「詩人業平」栗島狹衣著

（鳴皐書院、明治三十四年刊、定價金貳拾錢、本文六八頁＋評話三五頁）

古書價格三百圓也。與謝野鐵幹序に曰く、「僕常に人に公言す。日本は業平以外に健全なる頭腦の詩人なし。日本に生れて伊勢物語を讀まず且つ業平を欽慕せざる者は病人なり。不具なりと。」と。卷末には落合直文、與謝野鐵幹、鳳晶子、著者らによる伊勢物語の評話あり。

五「漱石警句集」

（良文堂、大正六年再版、定價金八拾錢、二四二頁）

古書價格二百圓也。「裏表のある人間は日記でも書いて世間に出されない自己の面目を暗室内に發揮する必要がある」、「女は多辯でいけない。人間も猫位沈默を守るといゝ」（猫より）。

六「藤樹先生　全」滋賀縣高島郡教育會編

（滋賀縣高島郡教育會、大正九年三版、定價金六拾五錢、六〇頁）

古書價格二百圓也。先生曰く、「金銀は重寶ならずと云ふに非ず。ただ明德の重寶に比ぶれば一位劣りたると云ふことなり」と。

七「重訂　新國文學選」平林治德ほか共著

（明治書院、昭和五年五版、定價金壹圓五拾錢、三五一頁）

古書價格二百圓也。伊勢物語より都鳥、源氏物語より浦波（須磨）、宣長の玉の小櫛、など。

八「學習受驗　參考枕の草子詳解」松本龍之助著

（受驗研究社、昭和五年刊、定價金參圓、八四七頁）

古書價格三百圓也。第三百段は、この草子の跋文とみるべきものにて、署名の由來を示す。中宮の「これに何を書かまし」云々に對し、清「枕にこそはしはべらめ」と答へたりしとぞ。

九「福澤諭吉先生」大分縣中津市教育會編

（中津市教育會、昭和八年刊、定價金貳拾錢、六一頁）

古書價格八百圓也。先生は歴史に興味を持ち、左傳十五卷は通讀すること十一度に及んで暗記するほど愛讀せりと。

十「日本古典全書別册　日本の古典」朝日新聞社編

（朝日新聞社、昭和二十二年刊、定價八圓、九六頁）

古書價格百圓也。國文學史あらまし、古典解題など。昭和二十一年十二月時點調査の國文學者一覽情報を含むは貴重。

十一「カセット　村山リウ　源氏物語を語る、葵の卷」

（創元社、一九八七年）

中古價格二千五百圓也。九十分テープ二卷組。村山リウは源氏物語の語り部として知らる。その講演會は大人氣なりき。よみうり千里ホールにての實況錄音なれば味はひ深し。創元社よりは、カセット十卷組のものもあり、そちらも既に入手濟み。

（令和七年十月十日日受附）